



Vol.9

綾ユネスコエコパークまちづくりネットワーク協議会紹介

綾スマイルカレー会

(長友順子代表 5人)

町内6つの公民館を月替わりで回り、毎月第4水曜日に手づくりカレーなどを無料提供する「綾カレー食堂」を開設しています。一人暮らしのお年寄りや一人で食事をとることが多い子どもたちはもちろん、地域の皆さんが集まって楽しく食事ができる場です。

活動のきっかけは、畑で規格外の野菜が畑に放置されているのを見かけたことでした。小さいながらも十分おいしく食べられるものでしたが、農家さんに聞くと「需要がなくそのまま廃棄される野菜は多い」とのこと。「農家さんたちが大切に栽培した安全で安心な食材なのに、もったいない。少しでも有効に活用できないか」と考え、地元野菜をふんだんに使った料理を提供することで皆が笑顔になればと、活動を始めました。

今年はスタートから6年目です。コロナ禍では感染防止のため持ち帰り形式にし、住民同士の交流を中断していましたが、現在は以前のよう



に会話を交わしながら食事を楽しんでもらっています。「おいしい」「おかわりください」と声を掛けてくれる子どもたちや、食事のあとにも会話をしたりしてくつろぐ皆さんの姿に、やりがいと喜びを感じています。なお、この活動で使用する食材のほとんどは、地元農家さんから寄付されたものです。「綾カレー」の活動を応援してくださる方々のご厚意に心から感謝しています。ありがとうございます。

「綾カレー食堂」は、南麓、西中坪、宮原、東中坪、神下、立町公民館の順で巡回しています。2月は28日(水)に西中坪公民館、3月は27日(水)に宮原公民館で開催予定です。いずれも午後6時オープンです。皆さんぜひ、お立ち寄りください！

綾ユネスコエコパーク推進室・綾ユネスコエコパークセンター

☎77-3482 URL <https://ayabrcenter.jp> ※エコパークセンターは毎週日・月曜日および祝日休館
休館などの情報はホームページで随時更新します



Column

インヒヨドリ

最近、青い羽の美しい鳥を見かけたことはないでしょうか。近縁のツグミなどをカラフルにしたような本種は、インヒヨドリといえます。色が鮮やかなのはオスだけで、メスは地味な色をしています。姿だけでなく声も美しく、春から夏にかけて繁殖期に入るオスは、聞きほれてしまうくらいに美声で歌を奏でます。

名前のとおり、もともとは海岸付近の岩場などに生息していた鳥ですが、近年、続々と内陸部へと進出してきています。好奇心旺盛な性格で、人前近くに姿を現すこともしばしば。移住してきた愛嬌のある野鳥を、今後もあたたかく見守ってあげてください。

ユネスコエコパーク通信

ネイチャーポジティブ宣言を発表

ネイチャーポジティブ (自然再興)

令和4年12月に開催されたCOP15(国連生物多様性条約第15回締結国会議)で「2030年までに生物多様性の損失を食い止め、反転させ、回復軌道に乗せる」という「ネイチャーポジティブ」の方向性が示されました。

「ネイチャーポジティブ」は「自然再興」とも言われます。分

かりやすく言うと、自然や生物多様性の損失に歯止めをかけ、環境にとってポジティブ(プラスの状態)にしていくという意味です。

なぜこのような目標が掲げられたかというと、私たちの生活は空気、水、食料、燃料など、森や海の恵みによって支えられているにもかかわらず、生産活動によって水質汚濁などの環境破壊を発生させたり、製品の原材料となる資源を採掘することで野生生物の生息地を

奪ったりし、生物多様性が持っている自然の回復力を25%も上回る規模で資源を消費しているからです。このままでは、数十年の間に約100万種の動植物が絶滅に直面するとの指摘もあり、生物多様性の損失を食い止める取り組みが急がれます。

実現に向け 多様な主体が連携

ネイチャーポジティブの実現には、生物多様性保全に加え、気候変動や資源循環などさまざまな分野の取り組みを、多様な主体が連携・協力して行っていく必要があります。国内でも、企業や団体、自治体などで動きが加速しています。

長年、「自然と共生するまちづくり」に取り組む、ユネスコエコパークに登録されている綾町でも、ネイチャーポジティブの実現に向けてさらな

る意欲を表明しようと、2月11日の綾町公民館大会で「ネイチャーポジティブ宣言」を発表しました。

「自然との共生」を目指すまちづくりの先進地として、私たち一人ひとりが生活の中で自然環境を守り生かすことを意識して行動していきましょう！



環境省HPから引用



◀綾町のネイチャーポジティブ宣言の詳細は役場ホームページをご覧ください。